

（１）本年度のN I E活動の概要

研究指定校１年目の実践で生徒たちが新聞に触れる機会を増やしたことで、新聞を読むことへの抵抗が減ってきた。２年目の本年度は、授業のなかで新聞記事を読み取って自分の考えを構築する力を養うことを目標に活動した。

活動に際しては、本年度はスクラップノートを活用し、生徒が関心のある記事を選び、自分の考えを書くという活動を継続的に行った。

社会科の公民「人権と共生社会」で男女平等について考える授業では、記事を選んで、自分の考えを書き、グループ活動で話し合うなかで、自分の考えを再構築するという姿が見られた。

１学期からこの活動を継続的に進めた成果として、生徒が記事を読み取り自分の考えを書く速さが向上したり、社会科の授業が楽しくなったという感想を寄せる生徒が増えたりした。課題としては、他教科でどのようにスクラップノートを活用していくか。また、さらに新聞がどのような学習場面で有効であるか考えていきたいと思う。

（２）本年度のN I E活動の取り組み状況

本校は全校生徒２０６人、９学級ある。指定校１年目の昨年４月、約８割以上の生徒が新聞を読まない傾向にあったため、各学年のフロアに新聞閲覧コーナーを設置して新聞を身近に感じられるように環境を整備した。また、全クラスで新聞の読み方を新聞社の方に教えていただく機会を設けた。

授業では全職員が新聞を活用した授業を実践した。さらに家庭学習でも新聞記事を読み取り、記事に対しての自分の考えを書くようにした。これらの実践により、生徒たちは次第に新聞を身近に感じられるようになってきた。

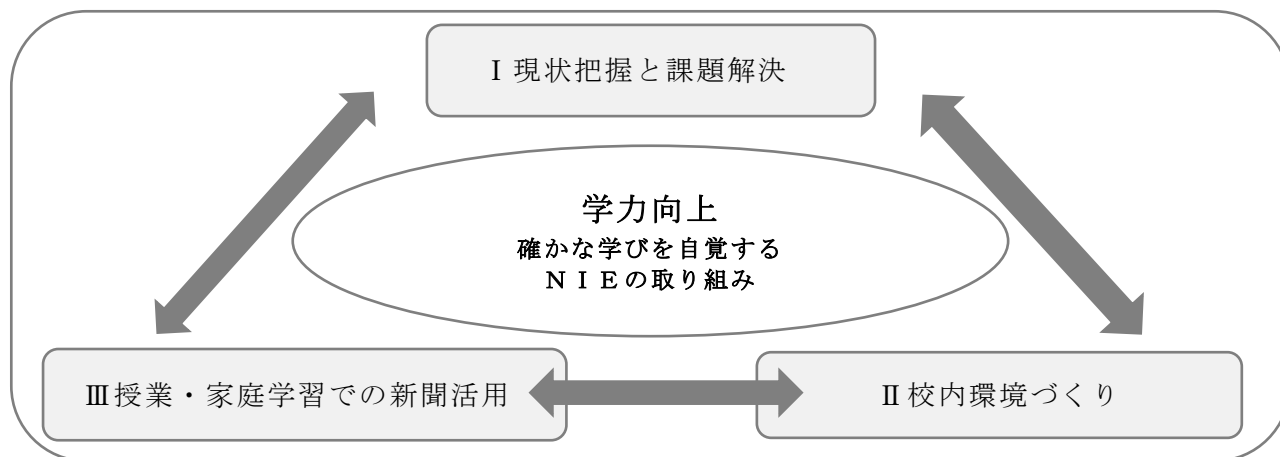
２年目の今年は昨年同様、全職員が授業で新聞を活用するとともに、スクラップノートを使い、記事について自分の考えを書く活動を取り入れた。この活動を通して、生徒たちは社会とのつながりを感じられるようになってきた。

（３）N I E活動のねらい（育てたい力）

本校では平成３０年度・令和元年度の２年間N I E研究指定校として、学校全体で新聞を活用した授業作り、学校創りを実践してきた。

特に力を入れたのは、ただ授業で新聞を利用することではなく、新しい学力観に基づく思考力・判断力・表現力をはじめとする身に付けたい３つの資質・能力を明確にするなかで、「社会に目を向け、社会（人・モノ・こと）とつながる」もの、手段としての新聞を考えたことだ。現実社会と教科書学習（学習内容）をつなぐ、社会参画の手段として新聞を考え、有効に活用しようと実践をした。新聞を作る側（記者）の『伝えたい思い』に出会い、その出会いから何を感じ、どう考え、どう発信していくか、この一連の学習の中で、教科と社会とがつながっていく、とても大切な手段になっていくと考えた。

新聞を活用した実践により、子どもたちが確かな学びを自覚できる学習づくりを紹介する。

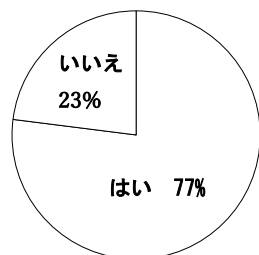


(4) 現状把握と課題解決 ～平成30年度の現状と具体的な取り組みより～

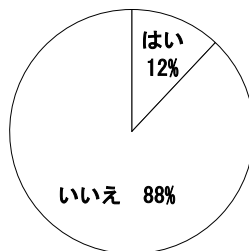
① 生徒のアンケートを実施

生徒の新聞に対する意識や利用の仕方をアンケート調査した。

新聞をとっていますか



毎日読みますか



生徒が情報を得る手段として最も多かったのがテレビ。続いてインターネットの順であった。新聞はとっているが、読まない生徒が多いことがわかった。社会とのつながりを学ぶ、言語活動を充実するためにも、新聞を身近なものとしたい。

② 「新聞に触れて、見て。読んでみよう！」

今日の授業は40分間、新聞を自由に読んでみてください。読む記事は指定しません。また、1年間の「信濃毎日新聞」が保存されていますのでいつのものでもかまいません。終わりの10分で、40分間新聞を読んだ感想をこの学習カードに記入してください。

A生：新聞はやっぱり読んでみて、難しいし、眠くなってくる。個人的には（テレビの）ニュースの方がいいと思った。

B生：情報量が多くて分かりづらい。

③ 「新聞の読み方を教えてもらおう」

生徒向け出前講座の実施

[6月13日(水)3年/7月18日(水)1・2年]

信濃毎日新聞社の方に来校していただき、全校対象（クラス毎）に出前講座を実施していただいた。

写真や見出しから関心を持ち、記事を読み進める姿が多く見られた。一つの記事について友達と対話する姿も見られた。新聞を読み慣れていないせいか読むことにやや抵抗があるように見えた。

④校内環境づくり

- ・新聞コーナーを設置

さまざまな新聞を提供していただけることになったので、校内に3ヵ所「新聞コーナー」（各学年の共有スペースに）を設置した。

⑤日常の学校生活でも新聞が扱われている。

☆各教室で新聞を積極的に扱っているクラス



3年生の教室では、教室内に新聞掲示コーナーを設けている。部活動など友達の活躍や時事問題を掲示した。入試で面接もあることから、社会に関心をもつために有効な教室環境の整備である。

⑥職員向け出前講座（夏休み）〔8月20日（月）実施〕

信濃毎日新聞社読者センターの方を講師としてお招きし、新聞の構成から教えていただいた。本校では特定の教科に任せ、その教科だけに特化された取り組みをするのではなく、全ての教科・領域で、全職員が関わって取り組んでいる。1学期には、おのの先生方が、どんな実践を行う予定なのか、新聞を活用しようとする思いを共有化できるような一覧表（NIE実践年間カリキュラム）を作成した。そして、授業ばかりでなく、学活をはじめとする、さまざまな教育活動で新聞を活用していこうとしている。授業と学校生活の両輪における実践でNIEを進めようと考えた。



職員の感想としては、
「授業に使ってみたくなった」
「何気なく読んでいた新聞の構成がわかって、より効率的に新聞から情報を得る手段を学べた」。その後、職員が職員室で新聞を読む姿も増えた。

（5）公開授業などの活動内容

指定校2年次 理科の実践より

遠くない未来に食糧問題を抱えることを知った生徒たちが、近い未来に販売され始めるゲノム編集食品を自分だったら食べるかどうかを考える場面で、自分とは意見の異なる相手に対してポスターセッションを行ったり、発表を聞いたりすることを通して、食糧問題に対して、科学技術を活用し、持続可能な社会をつくることが大切であると考え、授業を展開した。

ゲノム編集食品に対する規制が9月に解禁され、10月から製品の届け出が始まった。年内に市場に並んでも不思議ではない現状は、生徒にとって身近なこととして考えやす

いと思われた。

一方的なスライドを使った発表と異なり、質問があれば発表者にその都度質問できるのがポスターセッションのよさである。新学習指導要領でいわれている「対話的」という部分において、ライブ感あふれるポスターセッションという方法は効果的であると考ええる。

ゲノム編集食品という難しい話題に対して、端的にまとまっている新聞記事は、インターネットの情報や書籍よりも生徒が取りかかりやすいと考えた。新聞が読みにくい生徒には、イラストや写真を手がかりに記事を選ぶように伝えられるのも良さだ。

自信を持って考えを発表できるようになったK生。

普段は授業の際の発言に消極的なK生だったが、新聞記事を根拠にしたポスターセッションでは、大きな声で自信をもって自分の考えを友達に説明する姿が見られた。

成果「なぜ、新聞を教材にしたのか」

読み物資料として扱って終わってしまう単元だが、新聞を用いることで時事問題を自分に引き寄せ、自分ごととして考えることができた。

やや難しいと思われる内容だったにも関わらず、「知りたい」「考えたい」という気持ちから、難解な表現を自ら調べて読み解こうとする姿が見られた。

また、レポートを作る際に、自分がそう考えた根拠として他者の意見の引用として活用している場面も見られた。新聞は「正確な情報の入口」としての価値がある。ポスターセッションは自分の根拠を学ぶ場でもある。「発表→質問・意見→答える」活動のなかで自分の考えを再確認することができた。

新聞を教材として活用することで「新聞を通して世界を見る」という単元展開ができる。

ゲノムに関わる課題は、生徒たちにとって目の前の問題であり、SDGs（持続可能な開発目標）に関わる課題としても継続して問い続け、探究していくことのできるテーマでもある。

指定校2年次 社会科の実践より

3学年 公民「人権と共生社会」

単元の導入で、新聞から人権に関わる記事を選び、スクラップノートに貼り、自分の考えを書き、廊下にジャンルごとに区分して展示した。



社会科の学習を終えた後、人権教育旬間のなかで生徒たちは、自分が関心をもった課題についてインターネットなどを使って探究する姿が見られた。

単元「人権と共生社会」で男女平等について考える場面で、教科書の資料「女性の年齢別の働いている割合」のグラフから、生徒たちは「なぜ日本では女性の働いている人の割合が20代後半から40代前半で減少するんだろう？」という疑問をもった。そこで、新聞記事からその原因について読み取ったり、グループで話し合ったりして考えた。

＜新聞の教材的な価値について＞

社会的な諸課題や読み手にわかりやすい工夫が1つの記事に詰まっている。

新聞記事を読み解くことで、社会的な諸課題が連鎖していることがわかる。

成果「なぜ、新聞を教材にしたのか」

社会科の授業のなかで新聞スクラップを活用した活動を繰り返し実践するなかで、生徒たちは新聞を読むことに対して抵抗がなくなり、より速く記事を読み込む力がついてきている。

学習のベースに新聞スクラップがあり、自分の考えを書き、友達と回し読みをする。また、新たな問いが生まれれば、今はいろいろなツールで何でも調べることができる。新聞を読むことが「主体的、対話的で深い学び」へとつながる入り口になる。

今回の授業では、多くの生徒が生活体験のなかで男女は平等と感じている。しかし、新聞記事を読むことで現代社会のなかに存在する男女の不平等感について気づくことができた。新聞を読むことが先の自分に気づいたり、将来の課題に対して、解決策を考えたりしていくことにつながっていく。新聞を読み込んで話し合うことが、子育てをするという当事者意識を育むことになる。男女が支え合う男女共同参画社会に向けて第一歩を踏み出せたと思った。

○さんの学習カードより
国が育児に対して解決しようとしていても、職場の雰囲気が悪いことで、まず2人目や男性の育児についての問題は解決しないと思う。簡単なところからいくと、一人ひとりの考え方を変え、もっと子どもがいても、働いていても過ごしやすい環境を整えていくことが大切だと思う。昔の考え方を捨て、新しい現代のあり方を広めていくことが第一歩。

（6）生徒の反応

～家庭学習の取り組み

新聞の活用で、伝える力や、文章を書く力の高まりを実感した生徒たち～

同一生徒の4月（年度初め）と翌年2月（年度末）の家庭学習を比較した。社会科の家庭学習の1つで、新聞の記事を読み、要点をまとめ、テーマに沿って自分の考えをまとめる学習を、年間で20回以上実施した。新聞から事実を把握する力（読解する力）、理解して自分の考えをまとめる力（文章に表現する力・書く力）、いずれも高まっていると考えられる。生徒自身もこの学習の成果を実感した。

～新聞記事をスクラップすることで、社会に関心をもつようになった生徒たち～

1学年では毎週、家庭学習の一環としてスクラップノートに関心がある記事を貼り、自分の考えを書くことを課題に出した。1週間の生活ノートをやっていたなかで、金曜

日は1週間の新聞のなかから、自分が気になった記事、関心のある記事をスクラップした。家で新聞をとっていない生徒は、学校にある新聞記事を利用できるようにした。

これにより、生徒はどんなことに関心があるのか、キャリア教育とも関連して、どんな仕事に関心があるのかなど、さまざまな点で新聞を活用できる。

1年生M生のスクラップノート

サッカー部のM生はサッカー
の記事をスクラップ

新聞スクラップの課題は全学年で実施しており、9月の文化祭でも展示した。

1年生からの積み上げを大切にしている。



(7) 成果と課題

○全体を振り返って

「生徒により近い位置に新聞を置き、少しでも新聞に触れる機会を多くしたい」

「もっと新聞を読みたくなるような、教師からの積極的な働きかけが必要。その中でほれ込んだ、力のある記事を授業の中で使えることをめざしたい」

生徒が新聞を身近なものとしてとらえ、いつでも自然に新聞に手が届く姿を願い、取り組んできた。

しかし、1年次当初、生徒たちの新聞に対する印象は非常に悪く、新聞には難しい漢字や表現が目立ち、見るだけでも大きな壁があった。しかし、じっくり新聞を読む時間を確保したり、授業の中で記事のポイントを示したり、特定の教科に偏ることなく、全ての教科で新聞を活用した結果、生徒が新聞に抱いている壁が徐々に取り払われたということも実感できた。そして、新聞の中の「人・モノ・こと」に十分触れる時間を確保して、自分の思いや考えを記述する時間を保障することで、深い学びができることも実感した。一般的な生徒の様子で、文章が書けない、文章を書かないのは、書くための十分な時間の確保と、書くことが日常的になっていないことに原因があるとも考えられた。

また、教科によっては「どのような力をつけたいか」(どんな資質・能力を身に付けさせたいか)を明確にし、「新聞を使う意図」を明確に持つことが必要であることも感じた。

2年間の研究のなかで、新聞には多くの生きた情報が詰まっており、単位によっては新聞の方が主体的、対話的で深い学びが実現できる教材であると実感した。まずは、教師自身が新聞を手にとってみるのが入り口であると思う。

世の中には多くの情報があふれている。いかにこれらの情報を有効に活用し、確かな学びを実現するか、そして自分の豊かな社会を築いていくか、新聞は大きな手段になると思われる。